

4-17

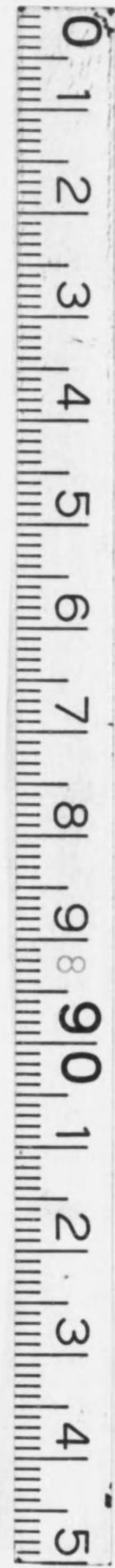
特249

355
1007

196

日本建國之本義

日本古典研究發行



始



3
7

特249
196

昭和十年四月九日

文部省訓令

方今内外の情勢を稽ふるに刻下急務は。實に建國の大義に基き。日本精神を作興し國民的教養の完成を期し由て以て國本を不拔に培ふに在り。我が尊嚴なる國體の本義を明徴にし。之に基きて教育の刷新と振作とを計り以て民心の嚮ふ所を明にするは文教に在りて喫緊の要務とするところなり。此の非常の時局に際し教育をよび學術に關與する者。實に責任の重且大なるを自覺し叙上の主旨を體し。苟も國體本

義に疑惑を生せしむる如き言説は嚴に之を戒しめ。常に其の精華の發揚を念とし之に由て自己の研鑽につとめ子弟の教養に勵み以て其の任務を達せん事を期す



目次

- 一 神靈の顯現と萬物の創造
- 二 修理固成の天詔に就いて
- 三 伊邪那岐之尊禊祓と三貴神の出現
- 四 天照大御神の窟屋籠りの世界人類に及ぼす偉大なる教訓
- 五 大國主之命の政權奉還
- 六 天孫日向國降臨
- 七 神武天皇大和國遷都
- 八 結論



一 神靈の顯現と萬物の創造

恐れ多くも

明治天皇様が。明治二十三年十月三十日を以て。御渙發被遊たる。教育の。御勅語に

□朕惟フニ。我カ皇祖皇宗。國ヲ肇ムル事。宏遠ニ徳ヲ樹ツル事深厚ナリ□
と宜らせ給ふ如く

我が御國が肇めて建設せられたる。本源は實に宏遠なる者である。是を容易に。述べ盡す事は出来ない然れども。是を述べざる時は宏遠なる事實を世に明らかにする事が出来ない。故に建國の本義と題して述べる事にする

我が日本の建國の肇めは造化の天神

天國常立之尊が國祖

伊邪那岐之命。伊邪那美之命此の二柱の大神に。此の多陀世幣流國を脩り理め固め成せとの。御勅を下し給ひしに肇まりて。亦萬世一系の皇基は皇祖

天照大神様が皇孫

瓊々杵之命に。天壤無窮の御神勅を御授け成されし時に確定したのである。亦國家治平の基は

神武天皇様が。日向の高千穂の宮より大和の橿原に。御遷都被遊たる時に平定したのである。今是等の

由來を述るに就ては太古神代より神話として我が日本に傳へられたる事柄を古事記及び日本書紀等に記述編纂されたる古典に基きて述ぶる事にする亦此の古事記に就て
天武天皇様の國史修撰の御勅語に

□朕聞ク諸家ノ齋タル所ノ。帝紀及ビ本辭云々。惟レ乃チ邦家ノ經緯。王化ノ鴻基ナリ

と宜らせ給へり。故に此の古事記の記述を無視したり否認したりする者は。我が日本皇國の忠良なる臣民ではないのである。此の古事記の記述を否認すれば即ち

天皇陛下の御勅語を否認する事になる。美濃部氏小谷部善一郎氏加藤熊一郎氏等は

天武天皇の御勅語を無視して外國に同化順應して居る人物である。日本國民としては大不忠の國民である。我々が國の古典に記し傳へられたる所に依ると

太古の時に於て未だ天も地も成らざりし以前。即ち無始の初めに。彼の大宇宙の眞中に只だ一柱の大神が坐しました其の御名を

天之御中主之神と申すのである。此の神は宇宙間に存在する。森羅萬象の大元大本を總べ理さめ知らし食し給ひて。大小一切の有形物無形物の寄りて成り出づる本元の神靈に被爲在るゝのである。我が日本皇國にて毎年一月三日の國祭日である元始祭は此の

天之御中主之神様の御祭りである。故に古事記を無視し或は否認する日本臣民は。我が日本皇國の國祭日を破壊する國賊であると云つても過言ではない。美濃部氏小谷部善一郎氏加藤咄堂氏の學説は悉く。

我が日本皇國の國祭日を破壊して居るのである次に

天之御中主之神の御分靈御分魂の神として先づ成りませる神の御名は

高皇產靈之神。神皇產靈之神である。此の二神も

天之御中主之神と御同靈である故に。自然と開合の理。陰陽の氣。男女の性を具備し給ひて凡そ大空に掛かれる日月星辰も此の地球も。地球の表面に存在する水火風土玉石金屬植物動物等總べての者を成生化育して息まないのは。此の造化の三神の御靈力である。我が日本皇國にては此の三柱の神様を造化の三神として崇敬して居るのである。亦此の造化の三神の奇しき妙なる大御業に依りて。亦二神が分靈分魂の神として成り出で給ふたのである其の神の御名を

葦可芽彥舅之神次に天常立之神と申すのである。此の二神も前三神と御同靈である故に萬物の根元の神である。我が日本皇國にては此の五柱の神を別天神五代の神として崇敬して居るのである。此の別天神五代の神は靈神でありて御姿はないのである。故に此の別天神五代の時季は闇黒時代である。自然科学は此の時代を闇黒世界と名付けて居るのである。此の闇黒の世界は別天神五代の神の御靈力に依りて。太陰即ち月輪が成り出でたのである。故に是より月夜となるのである是より年數經て諸屬星が成り整ふたのである。此の時代を自然科学は雲霧季と名付けて居るのである。亦別天神の分靈分魂として。此の太陰と共に成り出で給ふたる神様を

天國常立之尊と申すのである。是れ即ち

天神一代の神と申すのである。月輪の出現より屬星の成り調ふまでの年限は幾億年の間であるか實に長年月を經過して成り整たるものと思ふ。亦此の屬星が成り調ふたる後に更に太陽即ち日輪が成り出でたのである。爰に初めて晝夜の區別が出来たのである。此の日輪と共に成り出で給ふたる神の御名は

豊雲野之尊と申す神である此の神を

天神二代と稱して前別天神五代の神の分靈である故に萬物創造の神である。此の二神が地球元始の神である。地球及び地球の表に存在する萬物は此の天神一代と二代の神によりて成生化育されて居るのである何故ならば

天神一代の

天國常立之尊は月輪を支配し夜を支配し水氣を支配被下る神である

天神二代の

豊雲野之尊は日輪を支配し晝を支配し熱氣を支配被下る神である。此の陰陽支配の二神が萬物創造の根本の神である。日月水火なくして。萬物の存在は許さないと云ふ事は何人も否認する事は出来ないのである故に人間の身體より水氣を引き去り亦熱氣を取り去りたならば只だ一分時間も生存する事の出来ない事は自明の眞理である。然らば水氣熱氣は人間身體の根本要素である。人間のみならず萬物皆然りである。亦此の陰陽二神の靈力に依りて地球が成り出たのである。科學者は地球の成立を太陽の分身であ

ると云ふのである。太陽と別れたる當時の地球は太陽と同じく火塊でありたる者が年月を經過して漸次冷却して地球の表面は泥海世界と化したと云ふのである此の時季を科學者は泥濘季と云つて居るのである。科學者は日月星辰總べては空中の瓦斯體が結合して成立したる者であると云ふのである。然して地球の表面の萬物は皆な自然に成り調ふたる者である。自然が造りたる者であれば持主はない筈である皆な人類共有なる者であると云ふ所から民主主義が生れたのである。我が日本皇國は本書に述る如く別天神五代の神と。天神七代の神の十二代十七柱の神靈の活動に寄りて。日月星辰及び地球。亦地球の表面に存在す萬物は悉く御創造被下たる者であると云ふのが。日本國民の古來よりの信仰である。科學の進化論は明治元年に英國のダルウイン氏によりて發表されたる者が天地創造論である。人類の進化説は明治七八年の頃に發表されたのである。此の文明先進國の世界的大學者に依りて發明されたる。自然科學と。我が日本の未開時代に神話として傳へられたる。日本建國の淵源とが如何に好く一致して居るか驚くの外はないのである。然し自然科學者は萬物は自ら出来たる者であると云ふのであるが。自然其の者を支配する者が神である。神靈の偉大なる力に依らなければ出来得べき者ではないのである。亦此地球が陰陽二神の靈力に依り成り出でたる後に陰陽二神の分靈分魂として次ぎ々に神々成り出で給ふたのである其の神の御名は

□天神三代 宇比邇之神。須比邇之神

天神四代 活材之神。角材之神

天神五代 意富斗地之神。大斗辨之神

天神六代 於母陀琉之神。阿夜訶志古根之神

天神七代 伊邪那岐之神。伊邪那美之神

右十柱の神々が出現坐しましたのである。前の陰陽二神である

天國常立之神。豊雲野之神の二神を合せて十二柱七代と稱ふるのである。但し陰陽二神は一柱宛つを以て一代と數へ。三代よりは二柱を以て一代計ふるのである此の天神一代
天國常立之命より。天神六代の

於母陀琉之尊。阿夜訶志古根之命の時代迄は。萬物創造の時代である。所謂地球の表面は泥海と化し泥海は漸次凝り固まりて陸地と海洋とに區分され。亦陸地の泥土は高底が出来て山里川を成し山の底には岩石を化成し。海山里には植物動物を成生化育して。然して地上は幾回となく大爆發を成して地下に石炭石油石灰石等埋藏して後世人類の進歩發達の資料として人類を益し。天地開闢以來今日に至るまで。幾億萬年間神は晝夜間斷なく活動を繼續して止む事はないのである。若しも神靈の活動が停止したならば。日月星辰地球の運行は停止して地球内の萬物は枯死するのである。學說や理論は種々あるのであるが是れらは總べて水掛け論に終る者が多いのである。此所に大地創造に就て一例を掲げて参考とす
山口縣宇部市沖之山炭礦株式會社が現在採掘する礦區は海底であるが埋藏する石炭の種類は五種類にして然して。其の段階を五段に區分して居るのである。其の第一段目を一と石と云い。第二段目を大派炭

と云い。第三段目を五ツ段炭と云い。第四段目を袴腰炭と云い。第五段目を三尺炭と云ふのである其の四段目の袴腰炭の下部盤土の中に木の葉の化石が無數に散在して居るのであるが。石炭が植物の化成物である事は現代の科學の證明する所であるが。此の第四段目の盤土の下部に木の葉の化石ありとすれば此の所が山林でありたる事は疑ふ餘地はないのである。此の顯象より考察して第四段目袴腰炭上部三段の石炭は地表が山林となりては爆發して三回に化成したる者と考察する事が出来るのである。第一段第二段の一石炭及び大派炭は。第三段第四段の五ツ段炭袴腰炭より極めて其の質が粗惡炭であるのは植物が粗惡の爲めか年限の經過しない爲めかであるが是れに依りて宇部地方の石炭は五段一時に化成したる者にあらずして大地が五回に爆發したる事を確證する事が出来るのである。然して此の大爆發に依りて地下に石炭石油石灰石等其の他種々なる文明世界に必要な物質を埋藏して。後世人類の進歩發達を思い且つ人類福祉の爲めに。神は天地開闢以來間斷なく活動を繼續して人類を益し世界の進歩に資せられたのである。亦此の第四段目の袴腰炭の少し上部に獸類の齒牙の化石があつたのである。現代の學說に依れば石炭の下部には動物は居ないと云ふのであるが。然るに第三段目の五ツ段炭の最下部に動物の齒牙ありとすれば。如何に世界的學者と云へ共人間の言ふ事には間違が多いので在る學者の云ふ事は只だ想像であるから違ひあるのは當然である。亦此の化石なる者は古代の世界が如何なる状態でありたかと云ふ事を人間に知らずる爲めに。神が一部を化石として御残し被下るのである。此の木の葉の化石は昭和八年三月八日に獸類の齒牙は昭和十年三月二十六日に同礦の濱野留吉氏が作業中に發見されたる者

である。木の葉の化石と獸類の齒牙とは共に著者は保存して居るのである。然し前述の石炭埋藏に就いての事柄は古事記には傳へてはないのであるが。神の出現の順序と地下埋藏物の顯像とに依りて著者が考察して述べたる丈であるが決して間違はないのである。如斯く神は幾億年の未來の事までも御考慮被下て御創造被下たのである。故に萬物創造の神は我が皇室の御祖宗である。

別天神五代の神と。天神七代の神の十七柱十二代の神に依りて御創造被下たのである此の神々をば。我が日本國にては單に

天神亦是天祖と稱へて崇敬するのである其の
天神天祖の御神裔で被爲在るる

天皇陛下が御統治被遊さるのである

明治天皇様の御製に

○わが國は神の未なり。神祭る古の手振りわすれなよ夢

○國民はひとつ心に守りけり。遠つみおやの神のおしへを

○上つ世のみよのおきてをたかへじとおもふどおのがねがいなりけり

と御詠じ被遊る如く祖宗の神によりて御創造被下たる事を讀み現し被下たのである亦臣下に依りて我が國體の精華を讀み現わされたる歌に

○天地の神の固めし御國とて。伎し果てたる夷をも見す 詠百首の中に左中將基經

○秋津島神の納むる國なれば。君靜に民は安けく 不木抄の中に 源中綱

○幾千代も守りは變へじ。敷島の。大和島根は神の國とて 新玉津島歌合の中に 前の内大臣公忠

我が日本皇國の軍事及び政治に携わる重臣は右之歌の如く國體の大義を辨へて

天皇陛下の御爲に献身的御奉公成し被下。國民亦敬神尊皇の大義を奉じて

天皇陛下に御仕へして居るのである

是れが我が日本國民が

御祖宗より承け傳わりたる信仰である。

美濃部協士は我が日本の國民にありながら。我が國體の淵源が不明瞭の爲めに。我が日本の國體に相入れない學説を建て、我が國體を穢してまでも生活をしなければ生活が出来ないと云ふのは。實に其の心情は憐れ氣の毒なる者である。日本國民としては。如何なる下賤と云へ共。我が國體の精華を發揚して全世界人類をも指導救済すべき大使命大責任の在る身分である。美濃部博士ばかりではない。日本學者として我が神聖なる國體を破壊せんとする者は他にも數あるのである。是れは皆神の靈力を視止る丈けの惱力のない連中であるから。外國人の發明したる科學の進化説を信仰して神の存在を否認して得意然として居るのである故に日本國民にありながら日本の
天皇陛下に背いて居る事になる我が日本の

天皇陛下より軍人及び國家に功勞ある者に賜わる勳記に

□天祐ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝ハ

と宜らせ給ふ如く我が日本は天祐神助に依りて國運は隆昌するのである茲に

神靈の御創造に依り地球の表面の萬物は完成したのである依つて高天原に於いては先づ

天神の御未なる

伊邪那岐之尊。伊邪那美之尊二神に修理固成の天詔を授けられて天降しなさるのである

二 修理固成の天詔に就いて

此に

天國常立之尊は。其の七代目の神

伊邪那岐之命、伊邪那美之命。此の二柱の大神に

□此の多邪世幣流國を脩り理め固め成せと詔り給ひて

天の沼矛を授けて事依させ給ひきと古事記に記述す。此の修理固成の天詔が日本に始めて

天神より御渙發被遊たる。御神勅である

我が歴代の

天皇陛下は。此の御天詔を唯一の軌道として御政策を御取り被下るのであると共に。我々國民を御指導

被下。亦世界人類をも此の

御天詔に基づきて指導救済被下るべき。大責任を帯び給ふのである亦

天皇陛下の御責任は我々國民の大責任である。此の修理固成の御天詔の。意義に就いて拜察すると。此の世界は創造され。萬物も生成化育され。人類も生存するけれども。此の人類には智識もなく。學問もなく従つて。國家的の組織もなく。亦産業と云ふ様なる者もなく實に野蠻盲目なる世界である。此に國家を建設して。人類の智識を開發して。學問を習得せしめて。殖産工業を發達せしめ。此の世界を立派

なる。文明の世界として。人類を無限なる幸福の位置に進め。此の地上に。天國樂土を建設すべき事を授け給へる。御天詔であると思ふ是即ち日本

皇國の國是として進む所である。此の國策を遂行するに就いて。是れに反抗し是れを妨害する野蠻人は武力に訴へても是れを斷行すべき權利を造化の天神

天國常立之命より國祖

伊邪那岐之命に御授け給ふたのである野蠻人は己を利する事を知りて。他の愛する道を知らない。従つて大義名分を辨へない。眞理に服する道を知らず。劍より外に恐るべき者を知らない者が野蠻人である天神は伊邪那岐之命に。天沼矛と云ふ。武器を御授けなされし意義は。世界平和の天業成就の爲には戦争はしてはならぬが武備を怠りてはならぬとの意味にもなるのである

伊邪那岐之命。伊邪那美之命二神は

天神の詔りに依りて。淡路國に天降りまして。茲に天御柱八尋殿を御建被遊て夫婦の道を御始め被遊て天業恢弘の順序を御定め被遊るのである

伊邪那岐之命。伊邪那美之命が始めて御産み被成し御子神はヒルク。淡島の二神であるが此の二神は不具にして國家建設の御用に立たれない依て

伊邪那岐之命。伊邪那美之命は共に相議りて

天國常立之尊の御教へを御請け被遊て御實行の結果。次に御産み被遊たる御子神は穗之狹別と稱して立

派なる御子神である

伊邪那岐伊邪那美の二神は。我が日本の國祖である。我々日本天孫民族の元父母で被爲在。我々天孫民族の手本雛型と御成り被下るのであるから

天神は特に夫婦の正道に就いて御教導被遊るのである夫婦の正道に就ての教育の淵源は本著日本建國之本義に刷致す積りであります。日本婦人は是非讀んで頂きたいと思ひます

伊邪那岐之命。伊邪那美之命の二神は。天神の御教へに依りて御子穗之狹別を得給ひて此に國家經營の順序を定め給ひて次ぎ次ぎに御子神を御産みなされて國々島々に遣されたのである。其の國々島々と開拓者の御名は左の如くである

一 淡路國 穗之狹別

次に四國を四區に區分して

一 伊豫國 愛媛

一 讃岐國 飯依比古

一 阿波國 大宜都比賣

一 土佐國 建依別

以上開拓者四柱

次に九州を四區に區分して

筑前。筑後を筑紫と云ふ
 豊前。豊後を豊國と云ふ
 肥前。肥後を肥の國と云ふ
 日向。大隅。薩摩を日向と云ふ
 一筑紫の國 白日別
 一豊國 豊日別
 一肥國 速日別
 一日向 豊久志日根別
 以上四柱
 一臺岐國 天一柱
 一對島國 天狹手依比賣
 一穩岐國 天忍許呂別
 一佐土國 建日別
 一大倭豊秋津島。即ち本土
 一本土 天津御空豊秋津日根別
 以上此の八島を。大八洲の國と云ふ

- 一備前兒島 建日方別
- 一備前小豆島 大野手比賣
- 一周防大島 大多摩流別
- 一豊國媛島 天一根
- 一五島平戸 天忍男
- 一筑紫二生島天雨屋

如斯くにして

伊邪那岐之命は。其の一國一島の主として。御子神を開拓經營の任務に當らしめ給ふたのである。其の有様を拜察すると。本土は大なれども。只一柱の開拓者で在りたるは

伊邪那岐之命の。直轄の御領地でありて。天津御空豊秋津日根別が大君主たる

伊邪那岐之命の配下に立ちて本洲の開拓を成しつつ。一國一島の開拓者をも統率して大君主に仕へ奉られたる事は。後世大將軍が諸侯を率いて

天皇陛下に御仕へ奉りし如く然も全部の統治實權は

伊邪那岐之命にあらせられたのである。是れが眞の統一ある封建制度の國家の始であるとする事が出来る。如斯くにして國家經營の順序を定め。後亦國家に必要な。神々を産みて殖産工業及び教育の任務を其れ々々御定めなされたのである

其の神々の御名は次ぎの如くである

一 邸宅の神 大事忍男之神

石土比古之神

石巢比賣之神

大戸日別之神

天吹男之神

大屋比古之神

風木津忍男之神

以上七柱

一 山の神 大山津見之神

一 海の神 大綿津見之神

一 風の神 志那津比古之神

一同 志那津比賣之神

一 木の神 久々能智之神

一 野の神 鹿屋野比賣之神

一 船の神 鳥之石楠舟之神

一 火の神 火之夜藝速男之神

一 金の神 金山比古之神

一同 金山比賣之神

一 土の神 波邇夜須比古之神

一同 波邇夜須比賣之神

一 水の神 禰都波能比賣之命

一 食物の神 和久産靈之神

一同 豊受比賣之神

一 釜戸の神 沖津比古之神

一同 沖津比賣之神

一 穀物之神 大年之神

一同 御年之神

一同 若年之神

右之外澤山あるが數限のない事であるから略す。此の神々の内にて。水火風土の神と云ふ事があるのであるが。元來萬物の根元が水火である。水火なくして。萬物は生成化育しない筈である

伊邪那岐之命の淡路之國に御降りの際は既に萬物は創造されてありたのであるから。水火風の神は必要

はないのである。水火風の神は天神七代の神々の内にあるのである。此の伊邪那岐之命は。國家經營に必要を^感じて御産みなされた水火風の神は水火風を守り此の災禍を免るる爲の神である譬へば。筑後の水天宮の如き。不動明王の如き水を守り火を守る神様である。其の他各地方に日除水除の神社は澤山あるのである。斯くて伊邪那美之命は。國家經營に必要な神々を御産なされて。御崩御被遊。御遺骸を出雲と伯耆との境の比婆山に葬りしとも云ふ亦紀井の國熊野の有馬村に葬りしとも云ふのであるが。伊邪那岐之命・伊邪那美之命が淡路の國に天降り被遊たので在るから熊野の有馬村に御奉葬なした方が確實である。現在の學說にては我々天孫民族の紀元が不明瞭であるのは遺憾である。三浦周行博士の國史にも天孫民族の紀元は分からないと書いてあるが。我々天孫民族の紀元は。伊邪那岐之命。伊邪那美之命が國家建設の任務を授ける爲めに御産み被遊たる神々の支裔末族が天孫民族である

三 伊邪那岐之命の禊祓と三貴神の出顯

古事記に

伊邪那岐の命は。其の妃

伊邪那美之命を。相見まく思はして。黄泉國亦是殯斂處とも云ふ即ち御陵である

伊邪那美之命の坐します所に。追ひ出で給ひき。即ち

伊邪那美之命は殿の膳戸より出で向ひます時に

伊邪那岐之命詔り給わく

□愛らしき我が那邇妹の命。汝と作れりし國未だ造り竟へず。あれば歸りまさぬ。と詔り給ひき

伊邪那美之命答し給わく

□悔しきかも速く來まさずて。吾は黄泉戸喫しつつ。然れども。我が那勢の命の入り來ませる事恐れければ。還りまさむよ。吾は暫らく。黄泉神と相語らわむ。我をな視たまひぞ と申して。其の殿の内に入りませるに。甚や久しくて。待ちかね給ひて。是に

伊邪那岐之命は一火をともして黄泉神の宮に入りまししかは。途中にて種々の穢たなき。汚れに觸れ給ひ亦は種々の禍物に出會ひ給ひて怖^{おそ}れ畏みて逃げ還り給ひき。と古典に有る。古典通りに記しては意味が徹底しない様で有るが之は不得次第である此に

伊邪那岐之命は

天神の御命令に依りて。國家建設中に其の妃

伊邪那美之命が崩御被遊たるに就いて。いたく御愼きの餘りに

伊邪那美之命を。相見まく欲して。會ひに行かれたのであるが

伊邪那美之命の。御姿を見られて跡を追ふて行かんとなされて。種々の穢れや種々の禍ひに御會ひなされて。怖じ畏みて逃げ遣り給ふたのである此に

伊邪那岐之命は。大いに御悟り成されたのである。

吾は苟も國家統治の大責任を帯びて。全世界人類の指導救済の天業を恢弘しなければならぬ身分である。其れに一婦人の爲めに只の一分間にも天業を怠ると云ふ事は

天神の大御心に叶わぬ。此の大責任を無視して。一婦人を慕ふと云ふ事は即ち我が心の穢れである。

此の心の穢れ怠慢を悟す爲に

天神は我に穢れや禍事を御見せ被下たのである。恐れ多い事であると深く御懺悔なされたのである

伊邪那岐之命は。深く悔悟なされて。吾の心の穢れは只だ懺悔改悛したばかりでは澄ない。何か吾の此の度の罪を許して頂く丈の赤誠を捧げなければ只だ空懺悔にて罪罰の消滅すべき者ではないと。深く決心致されて。筑紫の日向の橘の小戸の檍原に行きて禊の祓ひをなさる事になる。此の禊の祓をなされたる所は。今猶ほ宮崎市外に檍村として傳説が遺りて居るのである

伊邪那岐之命は。罪惡に對する觀念が激烈であるのは。世界の萬國に神の道を傳へる爲に世界人類の罪惡を納消する道を教へる爲めに御自分が第一番に手本雛形を御示し被下たのである。此の禊祓に附いての事柄も本著日本建國之本義に増刷致す積りであります御讀み被下い此の禊祓によりて其の罪が納消されて諸神が澤山御産れ被遊るのである中にも三貴神と稱して

天照大神。月讀之命須佐男之命が御産れなされて

伊邪那岐之命は殊の外御悦び遊されて。吾は澤山の御子を産みて産みの果に。貴の御子三神を得たりと宣らせ給ふて其の内にて女神

天照大御神を御撰定被遊て御世繼と御定め被遊たのである

伊邪那岐之命には御子神澤山御在りなされて。男神にも器量神御在りなるにも不拘女神である

天照大御神を御世繼として國家統治の大權を御譲り被遊るに附いては深き御意義の在る事である我が日本天孫民族は

天神の使命に依りて歴代の

天皇陛下を奉戴して

天神の御意思であらせらる。全世界平和の確立と人類の福祉の増進とを天業として邁進する事を天命とする民族であるが故に最も忠良なる臣民を造るには女性の教育を最も急務とするのである。女性の教育は。女性に依らなければ完全なる成績を揚ぐる事は出来ないとの大御心より幾千年の未來の事を御考慮

被遊て

二二

天照大御神に國家統治の大任を御授けなされたのである。依て日本婦人は天照大御神の御勳陶を受けて是を子祖に傳へて居るのである。天照大御神の御子を正哉吾勝勝速日天忍穗耳之命と申すのである。

四 天照大御神の窟屋籠りの 世界人類に及ぼす偉大なる教訓

天照大御神の御弟君に須佐男之命と申す方があります。須佐男之命は父君伊邪那岐之命の御命令なされし海原を捨て。高天原に御昇り被遊たのである此の時に天照大神様は弟須佐男之命が昇り来るは。何か謀叛ありて来るならんと思し召したのであるが其の疑ひも天意に依りて明瞭となりて後ち御亂行を被遊すのである。天照大御神様の。御營田の畔を切り放ち。溝を埋め。樋を壊ち。田の中に竹串を刺しなど農事に對して種々なる暴害をなさるので。田夫は之を天照大御神に申し上げたのである。定めて天照大御神様は。御怒りかと思の外。御様子もなく。須佐男之命様は御心切の御方である。未だ田になる餘地があるので。吾の田を廣めて被下るのである。串を刺すは獸等の荒さぬ爲めと御悦び被遊たのである亦天照大神様は天祖を御祭りなさる。其の大嘗を聞こし食す。御神殿に於いて。須佐男之命は吐き散らしまらちらし給ふ時に天照大御神は。須佐男之命は御酒を召して酩酊なされてと善意に取りて御射ら御掃除をなされて。御満

二三

足の御様子。少しも不平不足の御様子に見へない。亦

天照大御神は。天祖に献まつる御衣を織らせ給ふ殿の。屋根を穿ちて。天班駒を逆剥ぎにして落し入れ給ふ時に。御衣織女。驚きて逃けんとして。梭にて腹部を突き死せり。是れを見そなわしたる

天照大御神様は畏みて。天の窟屋戸を閉じて刺し籠らせ給へりと云ふ記事が。古事記にあるのである。従來の國學者は

天照大御神様の此の天の窟戸籠の解釋を。須佐男之命の限りなき。御亂行に恐れて御籠りなされたとか亦是は怒りて。御籠りなされたとか云つて解釋して居るのであるが。之れは大いなる誤解であると共に。大いなる不敬である

天照大御神様を普通人間同等に視なして居るより起きる。不敬の解釋である

伊邪那岐之命は。御子様數多御在りなさる内にて女性たる

天照大御神様を。御選定になりて。國家統治の大權を御譲り被遊たる程の大器量神である天性の徳を備へて御出でなさる御方である

須佐男之命の亂行に恐れられたり。亦御立腹被遊す様なる。臆病者や。御精神の狭い御方ではないそんな臆病なる方や立腹なさる様なる方に國家統治の重任を御授けなさる謂れがない

天照大御神様は女性でこそあり。勇氣絶凛徳八宏に輝やく大慈悲なる大神格者である。我々日本國民を指導教育し被下尙進んで。全世界人類をも指導救済なさらなければならぬ。大責任の在る御方である

天照大御神様の總べての御行爲は悉く。我が日本の教育の淵源である。子供に恐れる事を教へたり。腹を立てる事を教へる親が何處にあるか。若しもそんな不徳の行ひを教へる親ありとすれば其れは野蠻人の親である

天照大神様は

天神の化身である。神であるが故に總ての。御豫言は的中して居るのである。彼の天壤無窮の御神勅の如き。幾萬年も變りなく繼續する事は神に依りて初めて云ひ得らるゝ御言葉である。人格者には

天神は其の身の内に入込みて其の神格者の口を借りて。未來の重大なる事に就いて詔り給ふのである。

是を神の御託宣とか或は神憑とか云ふのである。天に口なし肉體を有して居られる神人に依りて未來の豫言を被成るのである

天照大御神は如斯き神格者であるが爲に。弟須佐男之命の亂行を。自分の不徳の成す所として。大いに御反省被遊ても弟須佐男之命の悪いのではない。吾の

天神に對して不忠實である。斯の如く不徳の者では。天業の恢弘も出来ぬ誠に申譯のない事であると自己に御反省なされて。天窟屋戸に御籠りなされたのである。亦一方には

須佐男之命の亂行に對しては。吾は不行届きの者である。政治に就いても行き届かぬ所がある。吾の行き届かぬ所は棚に揚げて置いて無暗に須佐男之命を怨んではならぬと。此の低き優しき大御心を御持ちなされて

須佐男之命の御亂行をば。慈悲寛大自己反省の。大御心を以て御許し被遊て。御自分は不徳の者であるから今少し徳の修養をしなければならぬとて。天窟屋戸を閉ぢて御籠り被遊たのである。決して須佐男之命の亂行に恐れられたり亦赤怒して御籠被遊たのではないのである。亦須佐男之命の御亂行を制止せんとす爲めに。御姉弟御争い被成る様なる事は絶対になさらないのである。

天照大御神様は全世界人類の指導救済をなし被下るのであるから。我々人間の兄弟姉妹の實行すべき道徳の淵源を御示し被下たのである故に教育勅語の中にも

□兄弟=友=

と宣らせ給ふ如く

天照大御神様の御實行被遊たるヶ條を御勅語の中に揚げられてあるのである若しも

天照大御神様が御怒り被遊て御姉弟御争い事等ありては教育勅語の中の

□兄弟=友=

と宣らせ給ふ御言葉は無意義となる譯であるが

天照大御神様の總べての御行爲は世界人類の雛型となるべき者である是れ即ち我が御國の皇祖皇宗の御遺訓は生きた。手本雛形である

天照大御神様の。慈悲寛大自己反省の大御心が。萬世一系の皇基となりて。皇統は連綿として。天地と共に繼續するのである。此の天地有らん限り繼續せる世界無比の

天皇陛下に誠忠を盡してこそ我々國民の家庭も。萬世繼續するのである。我々國民も兄弟姉妹相親しみ互に助け合ひて。行かねばならぬ。兄弟姉妹の争いは強慾貪慾より起きる事が多いのである。此の眞の兄弟姉妹と睦じくする事の出来ない者が。他人と睦じくする事の出来る筈がない。其の様なる人間は永く富貴に楽しみの家庭を永續さす事は出来ないから二代三代の後には其の家庭は斷絶するのである。例を揚げて見ると。彼の征夷大將軍源頼朝は兄弟協力して平家の大軍を破り。天下を平定し位人神を極めて富貴に楽しみたるのであるが。大功のある義經。範頼を追ふたのである。兄弟にさへも信義のない頼朝は他人に信義の有る筈がないので。忠臣の部下は一人逃げ二人逃げて。頼朝の薨じた後。家頼の代になりては。不幸が続いて竟に源氏は滅亡したのである。頼朝に建國精神が在りたならば。兄弟相睦みあいて相當子孫も富貴に永續した事と思ふ。譬へ悪い兄弟にもせよ。兄弟の一致の出来ない者の子孫に天下統掌の器の出来ないのは當然の眞理である

天照大御神様の御實行被遊たる慈悲寛大自己反省の大御心は我々國民に萬古の御教訓を御遺し被下たのである。我々國民は

天照大御神様を手本雛形として。萬分の一なりとも實踐躬行さして頂かねばならぬのである俣て此に高天原に於いては

天照大御神様が天窟戸に御籠りなされてより後は。高天原暗く。葦原中津國共に暗く諸々の災禍起り邪神共荒さみて。青人草もまどいければ。是に八意思兼之神は。諸々の神を集い給ひて。天安河の河原に

於いて神議り給ひて

是に八意思兼之神の計ひにて。日の御像の御鏡を造らしめ。窟屋戸の御前にて御神樂を奏して。天照大御神の大御心を御慰め奉りて。御出ましを御願ひ奉らむと。天の金山の鐵を取り來たりて。鍛人天津麻宇羅を呼びて。御劍を造らしめ。石凝姥之命に。八咫鏡を造らしめ。王祖之命に。八尺之勾玉五百箇統王を造らしめ。手置帆負事命。彦狹知之命に大峽小峽の木を伐りて。瑞の御殿を造らしめ。天香具山の眞神を取り來りて。上枝には。八尺勾玉五百箇統王を取り下げ。中枝には八咫鏡を取り下げて。下枝には。白和幣。青和幣を取り下げて。是を太御手幣と。天太玉之命持ち捧げて。天津兒屋根之命は太祝詞を禱ぎ曰し。天手力男之命は窟屋戸の脇に立ちて隠り給ひき亦天宇津女之命は窟屋戸の前にて面白き躍をなし給ひ。諸々神は鳴物を鳴らして。御神樂を奏し給ひて。楽しく。時々高らかに笑ひ給へば天地も震動するばかりに。窟屋戸に籠らせ給ふ

天照大御神様は吾が此の内に籠り居れば。高天原も暗く。葦原中津國も暗らけむと思ふに故れ天宇津女之命は樂しみ亦八百萬神は笑ふと。窟屋戸を細目に開きて語り給へば。天宇津女之命答申さく。汝か命より美しき貴き神坐しますが故に。咲ひ遊ぶと曰し給ひき。斯く申す間に。天津兒屋根之命。天太玉之命は彼の太御手幣に下げたる御鏡を差し出して

天照大御神に見て奉りて。汝か命より貴き美しき神居ますと曰し給へば

天照大御神は彌よ奇しき專に思して。見そなはし給ひて。御自分の御顔の以前に彌やまして美しき狀に

不思議に思して。窟屋戸を稍や開き給ふ時に。窟屋戸の脇に隠りまし。天手力男之命は

天照大御神の御手を取りて。御出ましを願ひ奉り。窟屋戸には直ちに繩を張りて再び入られる事の出來ぬ様になされたのである。此の繩張りを。後世に各神社の締め繩の紀元であると云ふ。亦八百萬神々の天照大御神を慰め奉らむ爲に鳴物を鳴らして御神樂を奏し給ひしを。神樂の紀元と傳へられるのである。天照大御神は其の弟須佐男之命の限りなき暴行に對しては。先づ自己に御反省なされて慈悲寛大なる。

大御心を御持ちなされて。天窟屋戸に閉じ籠らせ給ひて。御偷養被遊たので以前に増して。立派なる。

御神格が備わりて美しき御姿が御鏡に寫りたのである。一部の國學者の云ふが如く若し

天照大御神様か。赤怒したり。恐れたりして。不平不満にて御籠り被遊たのであれば

天照大御神様の御龍顔に御憂愁の御姿が寫る筈である。然るに偉大なる御神格の備はりたと云ふ事は

天照大御神様が。悦こんで窟屋戸に御籠り被遊たる證據である。學問智識道德の進歩すると共に古典の解釋も進歩するのである

天照大御神様は八百萬神様の熱心なる御計りに依りて。天窟屋戸を御出ましましたなされてより高天原も鎮まり。葦原中津國も鎮まりて。此に全く邪神の騒動も鎮まりたのである

天照大御神様の慈悲寛大自己反省の大御心に化せられ給ふたる須佐男之命は大いに前非を悔い改められたのである。此れが即ち兄弟に對する教育の淵源である。

此に八百萬神等は。神議り給ひて。須佐男之命に千座置戸の祓を科せられたのである。此の千座置戸の

被ひと云ふ事は罪惡を犯して其の罪惡を納消する爲に。其の者の身に付けて居る。一切の物質を沒收する。刑罰である。須佐男之命は。懺悔改悛はなされても。罪惡を犯して惡るかつたと。斷りを云つたばかりにては。其の罪惡は納消されない。其の罪惡に相當する以上の苦しみをしなければ其の罪は消へないのである。刑法に掛る罪惡を犯して。御上の前にて惡るう御座いました恐れ入りましたと云つたならば白狀であるから。其の罪惡相當以上の苦役をするか。亦罰金を納むるかしなければ罪は消へない様なる者である。亦道徳の罪を犯して。是を放任して於いても。刑法の罪に非ざるも。天は見抜き見通してあるから。此れは病氣や災難となりて現はれるのである。總べて人を苦しめる事は罪惡であるから。天網は免るゝ事は出来ないのである。須佐男之命は自ら悦んで御身に付けて御居でなさる。御劍。首玉。衣類等一切差し出され。猶其の上に罪を納消さする爲に。御自分の頭髮。齒牙。兩手兩足の爪をも抜きて罪科の納消に備へられて尙其の上に

天照大御神に大功を樹て、申譯を致すべく御誓いなされたのである。八百萬世神等は斯くて須佐男之命を。高天原より神拂いに拂い給ふたのである。是れ實に

天照大御神様の偉大なる。御高徳の然らしむる所である。世の人々よ必ず人を恨む前に己を怨み己の徳の足らざるを反省して慈悲同情の精神を以て人に對すれば敵も信賴すべき味方となるのである
明治天皇様の御製にも

天を恨み人を咎むこともあらじ

わがあやまちを思いかいさば

御詠じ被下つてある。必ず人には缺點短所はあるのである曆代の

天皇陛下は此の

天照大御神様の。御性格を御請續ぎ被遊て。我々國民を撫育被下さるのである

須佐男之命は。高天原を御降りになりて。朝鮮支那を巡廻り給ふて。新義國に暫らく留まり給ひしが。

吾は此所に住むを欲せずと詔り給ひて。出雲に歸り給ひて詔り給はく。韓國には黄金白金數多あり

天照大御神の御子の知し食す國に浮賣なくては住からじとて。杉檜椀種を蒔き殖さむと。須佐男之

命の御子五十猛之命。大屋津比賣之命。津滿津比賣之命をして播種せしめ給ひて。青山となさしめ給へ

り。須佐男之命は出雲の籬の川の川上の鳥上と云ふ所に居坐す。山の神大山津見之命の御子手名槌。足

名槌老嫗の爲に。其の媛櫛稻田姫を助け救わむと。十拳の劍を抜きて。八俣の大蛇を斬り給ひて。其の

尾の中より都牟刈の刀を得給ひて。之を検するに其の刀叢雲を帯びたれば之を叢雲之劍と命名して

天照大御神様に献まつり。後世に日本猛之尊の御東征の砌り伊勢神宮に立ち寄られし際。倭姫之命より

陣中守護の神として。御授けに相成り。奉持し給ひし時。賊徒の計略に依りて。山中に入り給ひ。賊徒

は八方より火を放ちて。命を焼き殺さむとせし時に。日本猛之命は叢雲の劍を抜きて草木を伐り拂いて

其の難を免れ給へり。其の時より此の劍を草薙の劍と命名せり凱戦の際尾張國熱田に神宮を建設して。

此の草薙の劍を奉齋せり。即ち熱田神宮の御神靈として日本國民の崇敬する所である。須男之命は其の

後櫛稻田姫を入れて妃となし。出雲國須賀の地に宮造りて此に住み給ふ時に美しき雲立ち騰りければ。須佐男之命は大いに悦び給ひて。歌を讀み給ふ

やくもたつ。いづもやゑがき。つまこめに。やゑがきつくる。このやゑがきを

と詠じ給へり是を和歌の紀元と云ふ

須佐男之命と。櫛稻田姫との間だに。御子八鳥士奴之神を得給ひて後ち。須佐男之命は根の堅洲に隱退し給へり。其の子孫は世々出雲に住す。此の八鳥士奴之神の五世の孫を大國主之命と云ふ。此の大國主之命は根の堅洲なる須佐男之命の所に行きて身心の鍛鍊を請けられて。國家統治の神法を授かりて後ち出雲に歸りて。諸々の邪神を伐り撥らいて出雲に。宮造りして。國家を統治し給へり。是れを。出雲朝廷と云ふ。其の勢力は最も盛なり。亦。大國主之命は。民草の病氣や夭折するを憂ひ給ひて是れを恨み禁厭。醫藥の法を始め亦温泉を所々に開き給ひて。國民を救ひ給へり是れ即ち禁厭祈禱醫者藥。温泉の始めである。大國主之命は如斯く國家に貢獻せらるる事。偉大なり。御名數多あり大名牟知之神。大地主之神。八千矛之神。葦原醜男之神。大物主の神。大黒様等である

五 大國主之命の政權奉還

偕て高天の原に於いては

高皇產靈之神の大勅を持ちて

天照大御神の御子

正哉吾勝勝速日天忍穗耳の命に詔り給わく。葦原中津國に降りて。彼の國を知し食せと事依させ給へり

正哉吾勝勝速日天忍穗耳之命は

高皇產靈之神の天命に依りて。葦原中つ國に降らんとなされしに。葦原中津國は大國主之命の勢力盛んにして。部下の國神等は

天子に反抗せんと騒ぎ。其の形勢穩やかならざるにより

天忍穗耳之命は中途より歸り昇り給ひて

天照大御神様に。其の由御復命被遊たのである

天照大御神様は

高皇產靈之神の詔りを持ちて。八意思兼之命及び八百萬神を神集いに集い給ひて。神議りましき。葦原中津國は大國主之命領有して。大本營を出雲に置き。専ら國家統治の大權を掌握して居る。此の大國主之命に對して。葦原中津國の統治大權を奉還致さすべき勅使は何れの神を遣すべきかに就いて。八百萬

神等。神議り給ひて。此の勅使には

正哉吾勝勝速日天忍穗耳之命の。御矛君

天穗日之命（出雲大社千家男の祖）を遣わすべく議りまして。天穗日之命に勅使の大命降れり

天穗日之命は大命を拜して。出雲に降り。大國主之命の大本營に到りて。部下の國神の皇子を伺ひなさんと。部下神神の鼻意氣荒く。未だ時期の到らざるを思いて。此の時期を待つ内に三年間を費やし腹命なさらないので。高天原に於いては

天照大御神様は天穗日之命の腹命が永引くので。天穗日之命の御天子夷鳥の命を差し遣されたのであるが。是れ亦父君と同意見を技して直ちに腹命なさらないので。次は。天國玉之命の御子。天稚彦の命を勅使として差遣されたのであるが。此の神は。大國主之命の御女子下照姫を娶して己れ其の國を得むとの無叛を起して八年間腸命申されず依りて

高皇產靈之神。稚彦之命を誅戮し給ひけり。天より白羽の矢飛び來りて。天稚彦之命に當りて死せりと云ふ。此に高天原に於いては

高皇產靈之神の詔りを持ちて

天照大御神は更に葦原中津國に遣すべき神を撰定すべく。神議らせ給ふ時に。八百萬神等申し給わく此の度の勅使には。天尾羽張の神を遣すべし若し其の神に非らずは。其の神の御子建御雷男之命を遣すべしと申しければ。直ちに建御雷男之命に天經津主之命を添へて。出雲に差し遣し給へり

建御雷之命。經津主之命は大命を奉じて出雲に降り萬難を排して。大國主之命を説服して高天原に歸り給ひて葦原中津國は既に服従せる由を。天照大御神に腹命されたのである

六 天孫日向國御降臨

高皇產靈之神。天照大御神の大勅を以ちて。正哉吾勝勝速日天忍穗耳之命を召して詔り給わく。葦原中津國は既に服従せる由奏上せり。先年^事依させしまにまに行きて其の國を治すべしと詔り渡されたのである。此の時に天忍穗耳之命白し給わく。吾降りなむと裝束せし間に御子生れて其の名を。天邇岐志國邇岐志天日高彥種瓊々杵之命と云ふ。此の御子を吾に代りて天降らすべく御願ひなされたので

高皇產靈之神。天照大御神は其の願ひを御許しなされて茲に皇御孫

天津彥種瓊々杵之命を召し給ひて。天津高御座(天位)に即かしめ給ひて。五伴緒と申す五部の組頭の神。即ち天津兒屋根之命(中臣^氏の祖)。天太玉之命(齋部氏之祖)。天宇津女之命(猿女君の祖)。石凝姥之命(鏡造りの祖)。玉祖之命(玉造りの祖)及び大久米部と云ふ軍隊の長なる。天忍日之命(大友氏の祖)。其の他諸部緒と云ふ各種部族の長なる神々をも皆御前に配置して陪侍せしめて。最も嚴かなる儀式を以て。彼の天窟岩籠の時に

天照大御神に捧げ奉りたる八尺勾玉。八咫之鏡。須佐之命が大蛇を斬りて得給ひて

天照大御神に献られし叢雲之劍此の三種の神寶を捧げ持ち給ひて此の時

天照大御神は

天津彥種瓊々杵之命に詔り給わく

□ 豐葦原千五百秋の瑞穂の國は是れ。吾が子孫の王たるべき地なり宜しく。爾皇孫就きて治すべし行
きませ。寶祚の隆へまさんこと。天壤と共に無窮なかるべし
と詔り給ふたのである亦

天照大御神は御手に寶鏡を持ち給ひて。祝きて詔り給わく

□ 吾が御子此の寶鏡を視まさむ事猶ほ。吾を視るが如くし給へ。床を同じくして御殿を共にして齋の
鑑と爲し給ふべしと詔り給ひて。御鏡を御授けなされたのである亦

天照大御神は。天津兒屋根之命。天太玉之命に詔り給わく

□ 吾が高天原にて聞こし食す。齋庭の稻穂も亦吾が御子に食さすべし
と詔り給ひて授け給へり亦

高皇產靈之神は。天津兒屋根之命。天太玉之命に詔り給わく

□ 吾は天津磐境を起して天津神籬を樹て。皇御孫の爲に齋い奉るべし。汝天津兒屋根之命。天太玉
之命此の天津神籬を葦原中津國に持ち降りて。皇御孫之命の御爲めに齋き奉れ。

□ 其の諸部の神を率ひて其の職に仕へ奉る事天上の儀の如くせよ
と詔り給へり

天照大御神の御神邊には造化の

天神高皇產靈之神が付き添ふて御出でなされて國家大切なる事件の時は何時も御指導被遊るのである

天照大御神様の皇御孫に降し給ひし。天壤無窮の御詔勅の如き。我が

御皇室の天地あらん限り繼續する事を宜らせしは

天神高皇產靈之神様が

天照大御神様に命じて御定め被遊たのである亦皇御孫の命 御降臨に際して

天照大御神様は御手に寶鏡を持ち給ひて此の鏡を見る事。吾を視るが如くせよ床を同うし御殿を共にして齋きの鏡とせよと詔り給ひて御授け被遊たのである

天照大御神の大御心は此の鏡を親と思ふて大切に仕へ奉れと。親孝心の道を御教訓被遊たのである即ち忠孝一本の國體は

天照大御神様によりて御教訓被遊たのである亦

天照大御神様は。天津兒屋根之命に稻種を授け給ひて

皇御孫命之の聞こし食す物と定め給ひ後ち總べて天孫民族の定食となりたのである是れ皆

高皇產靈之神に依り御定め被下たのである亦

高皇產靈之神は我が日本の天津日嗣知し召す

天皇陛下の御即位大禮の儀式をも御定め被下是れをば。天津兒屋根之命。天太玉之命の二神に命じて今日に傳わりて居るのである故に

天皇の御即位大禮の儀式に參列したる外國の使臣は其の儀式の壯嚴なるに驚き實に賞讃して自國の新聞紙上に尨大に書きたつて居るのである

天神に依りて始められたる我が日本獨特の儀式である。外國にては

皇帝の即位には。宗教家の手によりて戴冠式が行われるのであるが。我が日本の

天皇陛下の御即位大禮は。天津高御座に御昇り被遊たなれば神様である故に人間の手は絶對觸るゝ事は出來ないのである

如斯く我が日本皇國は萬事の事柄は皆

天神の御指導に依り確定して居るのである。故に神道が立國の根本義となりて居るのである。神道は國の大道（天）祖の懿訓云々と云ふ事が有栖川宮熾仁親王殿下の御殿に於て三條實美公以下各大臣御會座の上明治十四年五月二十四日付け一般教職に御沙汰ありたり

偕て皇御孫

天津日高彥瓊々杵之尊は

天照大御神の大命に依りて。豊葦原瑞穗之國を知らし食すべく準備成りて諸臣を率いに筑紫の日向に天降ります時に國津神猿田比古之命は

天孫の天降りに付きて途中に御出迎ひ奉りて御先導を仕へ奉り。此の猿田彦之神の先導が各

神社の御祭禮の御神幸の時に御先き拂いをするのが猿田彦の命である。斯くて。皇御孫之命は日向の高

千穂の久志布流多氣に天降り被遊て茲に

天津日高彦穂の瓊々杵之命は。阿田の笠沙の御崎に到りまして。大宮造りして坐しましけるが。天津兒屋根之命。天太玉之命は

天神の御依さし給ひしまにまに

皇孫命の聞こしめす齋庭の稻穂を持ちて。大嘗祭を仕へ奉り諸部の神等も

天神の大神の如く其の職に仕へ奉りき。斯くて天津日高彦穂瓊々杵之命は。大山津見之神の御女木花咲耶比賣之命を娶して。御子。火照之命。次に火遠理之命。亦の名を天津日高日子火出見之命御降誕ましまして。其の後ち久しくして

天津日高彦穂瓊々杵之命は崩御ましまして。御陵は日向の埃之山にあり

天津日高彦穂出見之命。天位に即き給ひて。海神豊玉比毘之命の御女子。豊玉比賣之命を娶して。御皇子。天津日高彦穂波限建鷲草葺不合之命御降誕ましまして。後ち久しくして

天津日高日子火出見之命は崩御ましまして。御陵は高千穂山の。西高屋山上にあり

天津日高日子波限建鷲草葺不合之命。天位に即き給ひて。海神の御女子玉依比賣を娶して。御皇子。日子五瀬之命。次に稻氷之命。次に三毛沼之命。次に佐沼之命の四皇子を御降誕ましまして。後ち久しくして

天津日高日子波限建鷲草葺不合之命は崩御ましまして。御陵は日向の吾平山上にあり

以上の御三代は日向にましまして。御徳を御修めなされたのである

七 神武天皇大和國遷都

天津日高日子波限建鵜草葺不合之命の第四皇子佐沼之命天位に即き給ひて御名を神日本伊波禮比毘之命。謚して

神武天皇様と申し上げるのである

神武天皇様は御天性極めて御聰明なる御方でありて。御年十五歳の時に皇太子に立せられて。日向國宮崎の高千穂の宮にましましたのである。今尙ほ皇居の地名として。今の宮崎郡大宮村大字下北方丘の上に其の跡を存じて居るのである

神武天皇様は。御年四十五歳の時に。大和國に。御遷都の議を決せられて。爾來六ヶ年の歳月を費やして。大和國に入らるゝ事になるのである。其の時の事柄が。日本書紀に傳へたる所によると御年四十五歳に及び諸見。御子等に謂つて曰く

神武天皇大和國御遷都の御勅語

〔昔天神高皇產靈之神。天照大御神此の。豊葦原瑞穂の國を。我が御祖日子穗^理々杵之命に授け給ひ瓊々杵之命天降りましてより。あまたの年を経たり。されども遠き國は未だ。王澤に霑わす所々の長ども堺を別ちて相帆へり。亦東の方に青山四方に周りて。美國ありと聞く思ふに。それ國の中央なるべし其地に遷りて。天下の政を平らけく聞こしめさむ

と詔り給へり

此の時御皇兄。御皇子等對へ給わく。理り誠に灼し。我等亦常に然か思へり宜ろしく行幸し給ふべしと申し給ひき斯くて

神武天皇は。皇兄皇子等及び諸臣等を率ひて高千穂の宮を御發策被遊て御遷都の途に御就き被遊。此れより豊前筑前を経て長門周防の瀬戸内海を通過被遊て安藝の國を経て備前の兒島に止まられて此所に高島の宮を起して皇居となされ三年間御滞在被遊て糧食を整へ軍船を準備なされたるは

神武天皇の御遷都を防がんとする者あるを聞こしめされて斯く其の御準備を被遊たのである。斯の如く御準備を整へられて高島の宮を御發^策被遊て海路浪速津今の大阪に至り淀川を逆りて河内國に入られ。草香邑の白眉の津に着して。生駒山を越へて大和國の龍田に入らんとせられしも道狹隘くして入る能わす依りて善根寺越へして大和の鳥見に入らんとなされし時。豪族長髓彦の防撃烈しくして進む事出來ず此の時の戦に。皇軍の總指令官御皇兄彦五瀬之命は敵の流矢に當りて御戦傷被遊たのである此の時に神武天皇は詔り給わく

〔吾ハ日ノ神ノ血統デアル日ニ向カツテ戦フ故ニ賤ガ奴ノ痛手ヲ負ナリ宜シク。日ヲ背ニシテ伐ツベシ

と詔らせ給ふて是より紀州の背面より進軍被遊す事に決定して淀川を下りて紀州を迂回されたのである是より大和に御入り被遊る事になるのであるが其の間の

御道中の御困難は申し述るも恐れ多い事である。此の御進軍中には。御皇兄御三方は名譽の御戦死被遊

て
神武天皇は殊の外寂慮を御惱し被遊亦惡戰御苦闘の中に

天神は絶へず御守護被遊て天祐神助の奇蹟は至る所に現われて御道中の御困難も

天神の不思議なる御導によりて大和に出でられて種々なる種族を誅戮被遊て最後に長髓彦を誅戮被遊て
大和國は全く平定したのである

神武天皇は詔り給わく

〔吾レ西ノ國ヲ立チシヨリ。此ニ六年ニナリヌ。天神ノ恩頼ニヨリテ荒ブル者ドモヲ平ラゲ竟ヘツ。

故今ヨリ御制ヲ立テ民ドモヲ治ムルニハ。先ヅ都ヲ定メテ高御座ニヲワシマシテ。天ノ下ヲ知シ召
サム。彼ノ敵火ノ山ノ東南ナル橿原ノ地ハ。國ノ中央ナレバ大宮造リシテコソヲワシマシキ

と詔らせ給ひて。故れ即ち天太玉之命の御孫天富之命に事依させ給ひ。天富之命は工匠。手置帆負之命。
彦狹知之命の孫を率ひて瑞の御殿を造らしめて既に御殿成り終へつれば茲に辛酉の年正月元旦を吉辰と
して御即位の御大禮を行わせ給ふたのである此の祝日を陽曆に換算して——二月十一日に相當するの
ある。即ち其の一大佳辰を紀元元年となし國民一般の祝祭日となりて居るのである

此の御大禮に當りて天津兒屋根之命の御孫。天種子之命。天太玉之命の御孫。天富之命は

天神高御産靈之神の大勅を持ちて天津神籬を建て祭儀を仕へ奉らしめ給ひ。日臣之命は。大久米部を帥

ひて御殿の門を護りて開閉を掌とり亦可美眞手之命は内物部を帥ひて矛盾を造り備へて儀衛を嚴重にし
亦天富之命は諸の齋部を率いて。天璽の神鏡。御劍を御正殿の眞中に安置し奉りて。大殿祭御門祭を仕
へ奉りて。後ち御門を拜し開きて四方の國民に。天津高御座の大前を拜み奉らしめ給ひ最も壯嚴なる御
儀式を擧させ給ふたのである是即ち神武天皇紀元年である

天照大御詔様の御勅被遊し如く天壤無窮の皇基は連綿として茲に三千有餘年を繼續して

今後尙ほ幾萬年の未來までも我が日本皇國は。天地あらん限り現存するのである

此所まで述べ盡したる事に依りて我が日本皇國の

天皇陛下の御祖宗は造化の大元萬有根元絶對無限の實在者。人類濟度の元動力である。亦國土を生成し
萬物を化育し國民を産み國家を始めて今尙ほ大宇宙の大靈精神として人類を愛念し給ふ靈德最も顯著な
る御神靈で在ると云ふ事か大略御得心が付いたる事と思ふのである是れに依りて考へたならば我が日本
皇國は絶對的君主主義の國家である。是を國體の精華。固有の美風。建國の大義若くは本義と云い。亦
是を行爲に現わす者を國體觀念の明徴。日本精神亦は建國精神と云ふのである。我が日本皇國の國體の
淵源を極めて日本精神を育成したならば。從來日本の學者等が外國の學說を基礎として練り上げたる憲
法學說や日本の國體に相入れない日本民族の紀元學說等は我が日本皇國の國體を無視する國賊的學說と
して見へる様になるのである。現時日本の非常時局に直面して文部省の訓令に有る如く一日も早く國體
の明徴に懸命の努力をしなければならぬ。恐れ多くも我が日本の歴代の

天皇陛下は本書に述ぶるが如く
 天神天祖の御直裔にあらせられまして。即ち皇統を御繼承被遊。天祐を保有なされて國土綏撫の天職を
 帯び給ふ世界無比の

天皇陛下である。我々國民は我が日本の國祖

伊邪那岐之尊が國家建設の爲めに御用務を命すべく。御産み被遊たる八百萬の神の支裔末族である故に
 大和民族。天孫民族と稱するのである。故に我々天孫民族の使命は歴代の

天皇陛下様が

天神天祖の意思を承け續ぎ給ひて世界平和の確立と世界人類の福祉増進とを天業として。御軫念被遊る
 御天業を翼讚して日夜奮闘する事が天神より授けられたる大使命大責任である

八 結 論

我が大日本皇國は全世界無比の國體である。建國以來且て外寇の侵略を請けず亦且て亡國の難に遭遇せ
 ず。萬世一系の皇統は連綿として。天壤と共に無窮なる者は。全世界に獨り我が大日本皇國あるのみ蓋
 し。我が日本は世々天津日嗣が。御神勅を奉じて君臨し給へる。全世界無双の神國にして。國民亦忠孝
 を旨とし義勇奉公を生命とせる天孫民族である殊に

天皇は國民を大御寶亦赤子忠良の臣民として是を慈しみ給ひ亦國民は

天皇陛下を明津御神として尊崇せる。一大家族的國家である思ふて此所に至れば。我が日本國民は如何
 に世界に誇るべき國民であるか。亦此の日本に生れたる我々天孫民族は如何に恵まれて居るか實に謝
 しなければならぬ。此の尊い我が日本の民族の紀元を小谷部善一郎氏は日本及び日本民族の紀元の中に
 希來伯民族。猶太民族。イスラヘル民族の裔なりと説くのである最も彼の著書に造化神の純系統である
 と説く所はよいが。其の造化神の純系統である日本天孫民族が。猶太民族の大祖先のアブラハムの腹よ
 り出で亦イスラヘル民族の先祖であるヤコブの腹より生れ其れ等の子孫のマナセやガド等の腹より生れ
 たる如く説いてあるのであるが。其れでは日本民族が如何に造化神の純系統と云へ共。彼等アブラハムや
 ヤコブ。マナセガド等を御祖先と崇敬せねばならぬが。我々日本民族は彼等外人を御祖先として崇敬す
 る事は絶対に出来ないのである日本民族の紀元としてイスラヘルに民族のマナセとガドとが相提携して

日本に來れるは西洋紀元前六百三十八年と説くのであるから。是れに西洋紀元を合算して二千五百七十三年に成るのであるから我が國の神武天皇の時代に相當するのであるから年代に於いても大なる相違がある。イスラヘル民族を祖先とすべき民族ではないのである。

小谷部善一郎氏は日本古事記は日本文の教典である。猶太教典は世界の教典であると説くのである。小谷部善一郎氏著書日本及び日本民族の紀元に載したる一説を抜き書きして参考とす

第一章十四頁に曰く

太古地球の表皮に土壌なり。此に人間を造られて繁殖し而して是れが模範たるべき選民は希伯來の神族たるべき事を説ける者は。猶太教典とす（舊約全書之事）著者は多年に亘りて。此の世界的古典を研究し本書の資料亦多く之に求め。而して其の結論に於て日本民族は希伯來の正系にして猶太人と同族なりとするより。或は一部の人は感情に驅られて著者を非難する事あるべきも冷靜に眞理を求め併せて著者の十數年の研究に信を置かれん事を希望す云々

亦同書二十五頁に曰く

希伯來民族の裔なる猶太人が試練の元に有りて苦しみつゝあるは。やがて一陽來復して未來の世界に覇を成す前兆として窺われる此の意義に於て我が國も彼等と其の好運を一にする者の如し云々

此の説に依れば將來は猶太民族が全世界を統一する日があるが其の時は我が日本民族も。猶太人と同族

であるから。其の御情けに預りて幸福を分けて頂くと云ふ意味である實に殘念至極の説である亦同書三百二十六頁に曰く

昔猶太王國が強敵の侵入する所となり滅亡するに際し。地中海に面せる領土を有するダーンの支族は平素航敏に慣れたるより逸早く。極西の海島に脱れて英國の基を建て。後年羅馬帝國は滅び佛露獨の強國は漸次共和民主に其の政體を革めたるも。獨り大英國のみは毅然として王政を改めず。猶太の北境に領土を有する宗族マナセは隣接せるガド族等と共に。東遷し極東の海島に天壤無窮の神國を創建し隣接せる支那帝國は後世共和國と革まり。而して印度は亡びたるも此の靈秀の神洲のみは毅然として。天子政治を維持する事猶ほ大英島帝國の如くなるは是れ亦其の間に攝理の賜者なる事を窺ひ得べく。皆是れ神誓約に基く所なるは以賽書二十四章に豫言せる如くなり云々

亦同書三百三十八頁に曰く

天地初發の時神は土を以て造りたる人に靈氣を吹き容れて宿り給ひ。其の後裔の子孫は根源なる神を忘れて義に悖るも最初の純系を終始渝る事なく護らせ給ひ之に正義公道と神祭を司さどらせて選民とし。而して此の民も純潔純正を尙び神を敬ひ祖先を崇むる美風を存するは。世界廣しと雖も我が日本人を措ひて他に非らざるべし。其の發祥の地は日本の口碑に傳り。亦希伯來の古典に傳ふる如く。世界の中心たるアームの古タガーマのハランなる事は疑義を容れず。國の地は人類の始祖たるアダムとエバの住此たる所。亦ノアの洪水の時方舟が其の山頂し止まりたと云ふ。アララテ山の在る高地にして。ノアが

謝恩の神祭を行ふたる最初の聖地にして。日本人が其の祖先の發祥の地を。タガーマのハラシと傳ふるは驚くべき事なると共に。世界最古の神聖なる種族にして亦造化神の純系統なるを證する者と謂ふべし。アーメは今のアーメニヤ即ちアーメの國として存す云々
亦同書に曰く

我が國の學者は往昔日本の文化は殆んど支那より輸入せる如く説くも。支那には日本流の住屋も庭園も履物も脱ぎて家に上がり。座蒲團もなく。安座の習慣もなく却つて古への希伯來の風俗に日本は一致す如何なる理由に基く者なりや余は彼等に質問せんと欲す。余は日本が希伯來に學びし者に非らずして日本自身が希伯來の正系なる故に此の事ありと主張する者なり云々

小谷部氏の此の記述を読むと全然我が日本の古事記とは大なる相違のある事である如何に彼が造化神の純系統なりと云へ共外國人の腹より生れたる天孫民族は難有くない

亦加藤咄堂氏は我が日本の古典たる古事記は支那より輸入したる者と云い。日本民族は印度より渡來したる者と云ひ。我が日本の國體に相入れられない學説を述る學者は誠に多いのである數限りない事であるから述べないが。兎に角我が日本の學者として社會教育に任ずる者が。我が日本の國體の淵源を知らぬ爲めに。全世界人類指導救済を使命とする日本國民の教育に當るに外國の學説を基礎として練り上げたる學説に依り教育せんとするより。我が日本の國體の根元と合はなくなりて不敬極まる學説となるのである。故に我が日本の學者として任ずる者は宜しく我が日本の國體の根元を極めて後ち外國の學説を

研究すべきである今や我が日本の悪思想は大國難の一となりて居るのである。人類最悪の病氣は思想病なりと。ヘラスキンの云つて居る如く實に我が。皇國に相容れられない學説は斷然排撃すべきである。

米國のメーソン博士曰く現狀に満足するは日本精神に不忠實であると云はれて居る。我が日本國には立派なる國風があり亦道義がありて全世界を指導するに足る所の教育の淵源があるにも不拘。外國の思想學説を信じて外國化せんとする日本國民に忠告されたのである五ヶ條の御誓文の中にも

智識を世界に求め大いに。皇基を振起すべしとある如く外國の學術思想を研究するのは。我が日本皇國の國體の精華を發揚して

皇風を宇内に輝かす爲めである決して外國に同化順應する爲めではないのである。今や皇道日本の淵源を究めて日本精神の育成に努めねばならない時が來たのである益奮勵日本建國之本義を究められん事を希望す

(終)

355
1007

昭和十年十一月十五日印刷納本
昭和十年十一月二十五日發行

(定價參拾錢)

編纂兼發行所 宇部市大字小串第六十二番地ノ五十九
日本古典研究會

代表者 楠 孫 六

印刷人 山口縣厚狹郡舟木町 波多野英三

印刷所 山口縣宇部市東區綠橋通一丁目 宇部春水館

發行所 日本古典研究會
宇部市相生町

終

5
7